

■柊木 翔（ひいらぎ しょう）

23歳、モデル。身長184センチ。

雑誌を始め、CMやコレクションなどにも多数出演している。事務所の稼  
ぎ頭で引く手数多。

モデルは成り行きで始めたが仕事は嫌いではなく、それなりに拘りを持  
ってやっている。

仕事で一緒になったあなたに惹かれ、わかりやすくアプローチしている  
が当の本人には冗談だと思われ躲されている。

粘着質で執着体質だが、その自覚はない。

### 《未公開設定》

2年ほど前からあなたに片思いしており、いつか恋人になれると疑って  
もいなかった。

あなたに嫌われたくないという思いから、ゆっくり口説こうと少しずつ  
距離を詰めていたはずが、あなたに恋人ができてしまったことでタガが  
外れる。

上辺を取り繕うことには慣れているので表面上はそこそこ社交的に振る  
舞っているが、素は冷淡なため言葉の節々にそれが出る。

頭も良ければ身体能力も高く、今までできなかったことがほとんどない  
ため、努力などを知らない。

昔からモテるので相手に困ったことはない。女性から言い寄られてなん  
となく付き合ったり、体だけの関係も持ったりしていた。

自分から告白したこともなければ、本気になった女性も今までいなく、  
恋愛にもあまり興味がなかった。

あなたと出会ってからは他の女性に反応しなくなり、あなたへの気持ち  
を自覚してからは関係のあった女性を全て切り、以降は誰も相手にして  
いない。

両親とは淡白な関係で一般的な家族の形からはかけ離れており、そんな  
中で育ったせいで愛情というものがよくわからない。

あなたへの愛情表現はわからないなりにしてきたつもりだった。多分人  
生で初めて頑張ったはず。

事務所は伯母が経営しており血縁関係で稼ぎ頭なため、かなり融通が効  
く。

両親に代わり何かと気にかけてくれた伯母にほんの少しだけ心を開いて

いる。

好きな物は天然のスパークリングミネラルウォーター。

12月1日生まれ。

### 《補足》

〈トラック01〉（幕間【トラック01-02】も含む）

あなたとはよく連絡を取る仲だったので、彼氏ができたこととそれを教えてくれなかったことに怒りとショックを受ける。

この時点でかなり苛立っていたが、とりあえずあなたの気持ちを聞いてみようとして食事に入った。

そのあと、あなたの彼氏であるカメラマンと仕事をした際にあなたとの話を聞いて怒りが増す。

怒りが収まらず冷静さを欠いたまま、持っていた睡眠薬の存在を思い出す。

睡眠薬は元々ショートスリーパーである自分を心配した伯母に言われて行った病院で処方されたもの。

かなり強めのものらしいが本人は不要と思っているため常用はしていない。

店に入った時点では睡眠薬を盛ると決めてはいなかった。

あなたと話していくうちに恋人になれない現実を突きつけられ、完全にタガが外れてしまい、飲み物に睡眠薬を盛った。

〈トラック02〉

眠ったあなたをホテルに連れてくる。親が経営するホテルなので身バレなどの心配はない。

あなたが起きるまでそばにいて本当に心配していたが、思い留まることはもう考えていなかった。

無自覚な粘着質なのであなたの男性経験を節々で気にしている。

実はキスがあまり好きではないが、あなたとはキスがしたくてたまらない。

〈トラック03〉

彼氏から電話がかかってきたのは偶然だが、出ることを促したときにはあなたが自分のものであることを話すと決めていた。

あなたの達する声を彼氏に聞かせるつもりは最初からない。  
事務所と自分の力を使えば、カメラマン一人潰すことくらいどうとでも  
できるので何気に脅している。  
あなたが責められないように牽制しており、非難などは全て自分が受け  
る気である。  
このことを彼氏にバラされても別に良いと思っており、どうなってもう  
まく立ち回る自信があるらしい。  
好きになってくれなくてもいいと思って犯したものの、やっぱり好きに  
なって欲しい気持ちが捨て切れずにいる。

=====

#### ■ヒロイン（あなた）

スタイリスト。仕事が大好きで天職だと思っている。  
恋愛に対しては鈍感。仕事ばかりしていたため、ここ数年そういう話す  
らなかった。  
仕事でよく一緒になるカメラマンから試しに付き合ってみようと言わ  
れ、周りにも勧められて付き合ってみることにした。

#### 《未公開設定》

深く付き合う関係になるまでは時間がかかるタイプ。  
翔のことは気兼ねなく一緒にいれる一番仲の良い男友達と思っている。  
実際に翔といるときは肩肘張らずに自然でいられるので、関係性どうこ  
うより大事な存在だった。  
翔が自分を口説いてくるはずがないと冗談だと思い込み、本気にしてい  
なかった。  
関係が壊れることを懸念して無意識に拒否している節がある。  
彼氏のカメラマンことはまだ特別好きではなく、先に進むこともあまり  
考えていなかった。  
これでダメだったら恋愛はもうしなくてもいいかと思うくらい淡白でも  
ある。

#### 《補足》

#### 〈トラック01〉

翔に彼氏ができたことはなんとなく言えないでいた。

彼氏には翔と仲が良いことは軽くしか話していなかったもので、翔から食事に誘われたときは躊躇した。

自分のお祝いより翔の相談が気になって誘いを受ける。

### 〈トラック02〉

彼氏とはキスも何も本当にしていない。えっちするのも久しぶり。

男性経験もそんなに多くないので行為自体したことがないものが多い。

### 〈トラック03〉

電話のあとは気持ちよさもあるが少しだけ諦めも入っている。

翔のことをどういう意味で好きなのか考え始める。

=====

### 《未公開設定》

#### ■ヒロインの彼氏（カメラマン）

社交的な性格。平凡だが真面目なため印象がいい。

あなたのことが好きで周囲の人たちにも相談していた。

少しでもチャンスが欲しくてお試しという軽い感じに見せかけて告白した。

付き合えてからは浮かれ気味。

あなたとうまく付き合うためのアドバイスを翔に求め、翔の逆鱗に触れる。

翔の口利きで翔の事務所から仕事が入り、本人は自分の腕を認めてもらえたと喜んで疑っていない。